

専門委員長2年任期制（特例）とは

負担のかかる正副委員長職も、1年目に仕事を覚えると2年目は楽になります。「正副を合計2年務めた方は、その後お子さんが何人いても委員就任の必要なし」という特例を設けることで、やる気のある方に正副委員長を立候補でやって頂こうという試みです。（もちろん、ご本人の意思でその後も委員をされるのは大歓迎です。）

《期待される効果》 ① 年度当初に 委員長内定済み の委員会ができる

→ 各クラスの委員決めで手が挙がりやすくなる

4月最初の委員会で活動説明や仕事分担がすぐにできる

② 2年目の委員長は余裕を持って仕事ができる

《注意点》 ① 専門委員長2年任期制は、あくまで 選択肢の一つ（特例）

→ 各個人、各委員会で事情が異なります。事情に合わせてお選びください

② 同委員会、正副合計2年務めてくださった方に当てはまります

→ ただし、必ず1年は委員長をお務めください

③ 31年度は、総務・学習環境・児童安全・会計・真間小まつり・Web環境整備の6委員会で「委員長内定済み」

「希望申請書」の☆印は「正副委員長希望」の意味へ

→ 「委員長内定済み」の委員会の場合、☆印は「副希望」となります

クラスでの専門委員の決め方を全校で統一します

クラスによって委員決めの方法が違ふことで、保護者の皆さまの間に少なからず不公平感が生まれていた経緯があります。そこで30年度は、総務委員会から提案された4つの改善案を全校で実施していくことにします。たとえ総務委員さんがその場にいない場合でも、担任の先生にご協力頂けるよう分かりやすくまとめてみました。

《方法》 ① 高学年と低学年で懇談会での委員決めの時間をずらす

高学年 前半：委員決め → 後半：担任の先生の時間

低学年 前半：担任の先生の時間 → 後半：委員決め

② じゃんけんやくじ引きの代理参加 OK

止むを得ず委員決めに参加できない場合、保護者同士 の約束で

③ 1人1チャンス

当日「希望申請書」に○をつけた方のお名前を板書（申請書の○は複数OK）

クラスの希望者動向を見て、各自希望を 1委員会 に絞る

委員会ごとに、希望者同士で相談（または、じゃんけんやくじ引き）

④ 「委員・役員・お手伝い履歴（黄色い紙）」の活用

これまでの履歴を総務委員が集計して一覧表にまとめる

お手伝いの多い方は、優先的に希望の委員会を選べる

委員経験の少ない方へのお声かけの資料にする

ご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。